

## 議 事 録

会議名	釧路市障がい者自立支援協議会 第4回相談支援部会		
事務局	釧路市障がい福祉課 釧路市障がい者基幹相談支援センター		
開催日時	令和5年2月20日(月) 15:00~17:00		
開催場所	釧路市柳町アイススケート場1階会議室		
出席者	部会員	出席 23名 佐々木部会長(ソーシャルカフェ)、早川副部会長(ハート釧路)、竹内副部会長(つばさ)、森島副部会長(自立センター)、柿沼・大塚・吉川(自立センター)、久保(釧路市児童発達支援センター)、葛野(のおと)、二瓶・妹尾(いっ歩)、春木(ウルカス)、森山(にじ)、町田(いまじん)、佐藤・打川(りりーふ)、宮崎(ケアサポ)、高岡(リール)、大峠(そよかぜ)、平間(わんだふる)、武田(サハス)、山本(Kcマヴィ) 議事録担当：八木沢(結) (敬称略)	
	その他	なし	
	傍聴者	なし	
	事務局	出席5名 障がい福祉課 佐々木主査・豊巻主事・山下主事 釧路市障がい者基幹相談支援センター 金子・近藤 (敬称略)	
会議次第	<p>1. 挨拶 相談支援部会長 佐々木 寛</p> <p>2. 議 事 グループワーク ① 昨今の福祉施設の虐待案件について ② 令和4年度の相談支援部会の振り返り、令和5年度の運営等について</p> <p>3. その他 ① 第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の策定について ② ライフサポートさわらびの短期入所 空所確保事業について</p> <p>4. 閉 会</p>		

# 議 事 内 容

## 1. 挨拶

相談支援部会部会長 佐々木 寛

## 2. 議 事

グループワーク

### ①昨今の福祉施設の虐待案件について

(進行：佐々木部会長)

#### ○オリエンテーション

- ・グループワークの概要について、佐々木部会長より説明がある。
- ・佐々木部会長より提供された障害者の意思決定に関する新聞記事や障害者施設における虐待案件に関する記事を参考に相談支援専門員として障害者の意思決定について各グループで意見交換を行う。その後、各グループで発表後、その発表に対する感想等を他のグループから発表。
- ・各グループで司会、記録者、発表者を決める。
- ・役員・事務局もグループに入り、検討に参加する。

#### ○グループ検討

5つのグループに分けてグループワークを行う。

#### 《グループ割》

- 1 グループ 柿沼 久保 妹尾 春木 山下 森島
- 2 グループ 大塚 森山 町田 早川
- 3 グループ 佐藤 宮崎 吉川 高岡 豊巻 近藤
- 4 グループ 二瓶 打川 大峠 平間 金子
- 5 グループ 八木沢 武田 葛野 山本 佐々木

#### 《発表》

(1 グループ)

- ・避妊が条件で拒めば退去を求めるという施設の対応が信じられない。
- ・きちんと当事者の意志を組み取れていたのか、組み取ろうとしていたのかが疑問。
- ・自己決定権が得られるようなものを掘り下げていけば、こういう形にはならなかったのではないか。
- ・支援者側が「上から目線」で物を言っているのではないか。
- ・不妊手術ではなく、他の対策も考えていけば良かったのではないか。

(2 グループ)

- ・日本でも最近まで優生保護法が残っていた。高齢の人ほどそういう思想が強いのではないか。

## 議 事 内 容

- ・優秀な人を残そうとする考えが未だに社会に残っている。
- ・能力主義が社会の雰囲気として現存している。
- ・出生前診断により産む、産まないの選択が生じている。

### (3 グループ)

- ・なぜ虐待が起きるのかということ振り返り、障がいを持った方が生活する上での理解がまだ不足しているのではないか。普通のことだということが浸透するまで時間がかかる。
- ・地域で虐待が起きないため、地域で支えていける実行力が伴うシステム作りが必要。

### (4 グループ)

- ・本人の権利とはなんだろうという話になった時、まだ社会の体制が整っていないという話になった。
- ・「自己決定」について本人の話をしっかり聞いているのか。子どもが当事者の場合は本人に話を聞くより親の話を聞いているのではないか。
- ・子どもと親の考え方の違い。「当事者主義」と「保護者主義」支援者のスタンスの違い

### (5 グループ)

- ・施設での育児、出産の支援体制が整っていないという記事の中から、自己決定権としての選択肢がない問題とか、国も想定していなかったという背景があり、どういう保障ができるのだろうか。また、障がい者同士の結婚をどう支えていくかということも、支えるしくみ作りが大きな課題。
- ・大人も含めて性教育されていない方が障がいの子だけでなく、自分の子をどのように性教育していけば良いのかという背景があるのだろう。
- ・あすなろ福祉会の中で、施設は親の同意を得ているとなっているが、施設側と同じような考えだっただけではないのか。個人の尊厳と言いつつ個人の自己決定権がないがしろにされている。社会をどう変えていくのかが大きな課題。

## ②令和4年度の相談支援部会の振り返り、令和5年度の運営などについて

(進行：竹内副部長)

### ○オリエンテーション

- ・グループワークの概要について、竹内副部長より説明がある。  
配布された資料（過去3回の相談支援部会の概要について、相談支援部会 アンケートまとめ）を参考にし、各グループで今年度の振り返り、次年度の部会で取り上げてほしいテーマや運営方法等についてグループワークを行う。

### ○グループ検討

グループ割、司会、記録者、発表者は①と同様。

## 議 事 内 容

### (1 グループ)

- ・部会に参加して相談支援について理解を深めることができた。
- ・1つのテーマでフリートークのような形で、交流も含めてできたら良い。
- ・クレーム等の対応の仕方の成功例、失敗例等を共有できれば良い。
- ・事例検討ではいろんな考えや意見が聞けた。今後その考えを参考にしたい。

### (2 グループ)

- ・日常ではなかなか関わらないようなケースに触れることができ、色々な視点でアドバイスがもらえて参考になった。
- ・制度上のこと等について触れてほしい。
- ・部会のテーマや運営等、みんなで積極的に携わっていき、運営する側の視点でもやってみたい。

### (3 グループ)

- ・一人で行っている相談支援事業所も増えてきた。基本的なことも聞かせてもらえ、勉強する機会になっている。
- ・愚痴も含めて聞いてもらい励みになった。今まで以上に広い視点で考えることができた。
- ・ヘルパー等の空き情報などの情報交換ができると良い。
- ・部会だけでなく普段から情報交換できるネットワーク(LINEのグループなど)が構築できると良い。

### (4 グループ)

- ・皆の意見を聞けるのが大きいし勉強になる。また見方を変えて考えることができる。共感、共有し、横の繋がりができる。
- ・今年度行ったような事例検討会をやってほしい。また、フリートークができれば良い。
- ・自分が抱えているケースの方々に対しての支援のヒントになる。
- ・WEB会議ではなく、直接会って話し合える方が活発に議論できる。
- ・社会資源の開発など「今ないものをどうするか」等の共有ができれば良い。

### (5 グループ)

- ・今年度行った事例検討等がとても良かった。
- ・経験年数に応じてグループ分けしてもらえたのが良かった
- ・他の方の意見が聞けたのがとても有意義であった。
- ・ヘルパーの事業所が減少しているので、情報共有できる場であれば良い。
- ・最近、グループホームを閉鎖する事業所が出てきている。短い期間で次の行き先を探さないとならない状況が多くなっている。事業者としての自覚を持つためにも部会で話をする機会を設けたら良いのではないかな。
- ・今日のグループワークがとても良かった。自立とか自己決定について色々な考えを聞ける機会があれば良い。

## 議 事 内 容

- ・新制度の理解ができる機会を作ってはどうか。例えばモニタリング回数がどのような場合に追加できるか等の情報共有できると良い。また、加算についての解釈をもっと詳しく理解できる機会を設けたら良い。

### 3. その他

- ①第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の策定について  
(事務局より)

第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画の策定に向けたスケジュールについて説明

- ②ライフサポートさわらびの短期入所 空所確保事業について  
(事務局より)

ライフサポートさわらびの短期入所 空所確保事業の内容について説明

◆総評【相談支援部会部会長 佐々木 寛】

今年度最後の部を無事に締めることができ良かったと思う。もう一年任期があり、今の体制が続くので、また来年度お世話になります。よろしくお願いいたします。

### 4. 閉会